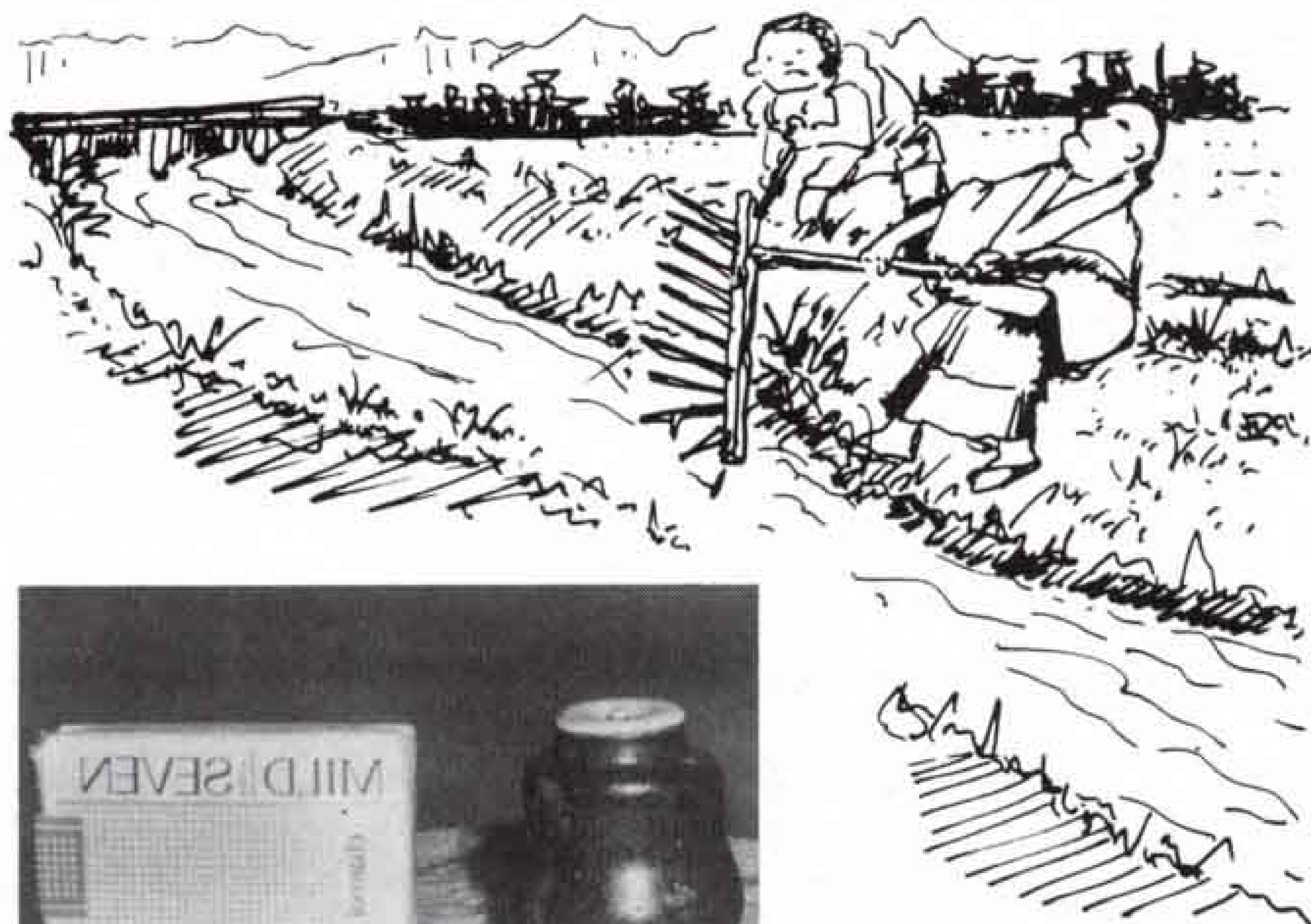


ふるさとの昔話



かつばの恩がえし

吉原三丁目の唯称寺には、三代目の住職がかつばを助けたときにもらった茶つぼがあります。今回は、その茶つぼにまつわるお話です。



△唯称寺に伝わる茶つぼ

かつばを助けた和尚さん

昔、唯称寺が中吉原宿（依田橋の西）にあつたころのことでした。ある晩、和尚さんの枕もとに一人の白いひげのおじいさんが現れました。

おじいさんは「私は和田川の川下の三股に住んでいるかつばです。先日の洪水で河合橋の近くにある私のすみかに馬鍬（農具の一種）が引つかかり、子供たちが出入りできません。どうぞ馬鍬を取ってください。」と言って帰りました。

翌朝、和尚さんは小僧を連れて河合橋まで行って見ました。すると、かつばの言つた通り、和田川の土手の下の方に馬鍬が引つかかっています。

和尚さんは、「これだな」と思いながら、小僧と二人で苦労して取り除きました。

その晩、夢の中にかつばが現れて、「和尚さんありがとうございしました。これは私が川底で拾つた茶つぼです。ほんのお礼のしるし

です。そして、これから唯称寺が火難や水難にあわないうようにしましよ。」と言いました。朝になつて和尚さんが玄関に出てみると、茶つぼと魚が置いてありました。このあと、唯称寺は一度も火事にあつたことがないそうです。

火事に遭わないよ

唯称寺には、茶つぼと馬鍬が今も伝わっています。住職の沢崎白雅さん（六十一歳）は、「カツパの恩がえしかどうか知らないが、何度かあつた吉原の大火をのがれています。」と語ってくれました。＊茶つぼと馬鍬は一般公開していません。



△馬鍬を手にする沢崎さん

地名の由来

藤（原田地区）

齊



原田地区に齊藤という地名があります。由来は定かではありませんが、寛文五年（一六六五年）の駿府代官からの年貢割付状に「齊藤村」とありますので、古くからの村です。

一説では、今川氏の臣、齊藤加賀守（本領地は宇津谷）の領地であつたから、齊藤という地名になつたのだともいわれています。加賀守は今川氏親の家督争いに活躍した武将です。

こちら編集室

いかがでしたでしょうか、新紙面。

横書きを縦書きにして字と紙面を大きくしたわけですが、慣れないことに編集室はあつた。でも、発想の転換という意味ではよい勉強になりました。皆さんこれからもよろしく。

市制20周年記念

今月の行事

駿河湾周遊体験航海
とき 4月26日、
27日
ところ 田子の浦港



新たな創造
確かな発展
—はたちの富士市

富士のあゆみ



▷青島の磔八幡

江戸幕府の農民政策

中吉原宿が津波で破壊した翌年の延宝9年（1681年）、青島村の川口市郎兵衛は幕府の厳しい検地に反抗しました。彼は村の名主で、自分の村とその周辺の村々のために抵抗しましたがはりつけとなりました。

しかし、幕府も予定通りの年貢の取り立てはできませんでした。

感謝した村人は、磔八幡としてまつりました。

また、安永（1772～80年）のころ、大淵の農民は年貢の厳しい取り立てに餓死寸前でした。

名主の新五郎は、農民を救うために江戸へ行って訴え、その罪で首を打たれました。今も帳塚に祭られています。

一方、天和2年（1682年）今泉村の農民中村五郎右衛門は、將軍綱吉から親孝行の模範だとして表彰されました。

これらの事件は江戸幕府の農民政策の表と裏を示したものと いえます。